

第5次新座市総合計画実施計画 事務事業評価シート
(対象：令和6年度実施事業)

1 事業基礎情報（Plan）

基本政策	第6章 基本構想の推進のために
施策領域	第1節 共創のまちづくり
施策項目	施策1 共創によるまちづくりの推進
事業	ホームページ運営
所属	シティプロモーション課
事業概要	市民の多様化した情報ニーズに迅速に対応するため、インターネットを利用したホームページの運営及び管理を行う。
実施形態	☒ 市が直接実施 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託・指定管理 ☐ その他
実施根拠	☐ 国・県の制度 ☐ 国・県の制度＋市独自の制度 ☒ 市独自の制度
根拠法令等	なし

3 事業評価（Check）

事業の実施状況	B	A：計画以上に実施 B：計画どおりに実施 C：計画どおりに実施できず
事業の必要性 【市民ニーズ】	A	A：高まっている B：変わらない C：薄れている
事業の効率性 【見直す余地】	B	A：余地はない B：余地はある
施策への貢献度	A	A：貢献している B：やや貢献している C：貢献の度合いが低い
事業の成果・分析	ホームページのリニューアルを令和5年度に実施し、ホームページの記事更新と連動して各所属によるSNSへの投稿機能が実装され、令和6年度は、活用が進んだと感じている。 また、ペーパーレス化やデジタル化により、市の情報発信手段としてホームページの役割は大きくなってきていることから、事業の必要性が高まっている。問合せメールやAIチャットボット、アンケート機能等を活用した市民と行政との橋渡し役も担っており、施策への貢献もしていると考えられる。	

2 事業実績（Do）

年度			令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度
予算・ 決算	予算現額（円）		27,537,000	4,625,000			
	財源内訳	一般財源	10,037,000	4,625,000			
		特定財源等	17,500,000	0			
	支出済額（円）		27,442,680	4,613,216			
	不用額（円）		94,320	11,784			
	執行率（％）		99.66%	99.75%			
実施内容			市政の情報を広く伝えるため、ホームページを開設している。 １ 市政情報、市の紹介、広報にいち、暮らしの情報、公共施設などの掲載 ２ LINEやSNSと連携した情報発信 ３ AIチャットボットを活用した問合せ対応 ４ 継続的な見やすく探しやすいホームページ作り				
年度			令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度
	指標名	単位					
活動 指標・ 成果 指標	月間平均閲覧数	件	588,321	599,451			
	トップページの月間平均直帰率	％	21.87	16.68			
	AIチャットボット月間平均未解決率	％	13	13.63			

4 事業の今後の方向性・取組方針（Action）

今後の方向性	II	I：事業規模拡大 II：改善しながら継続 III：現状のまま継続 IV：事業規模縮小 V：事業廃止 VI：事業終了
今後の取組方針	昨今の庁内外におけるデジタル化の流れや、デジタル端末に慣れ親しんだ世代が増えてきていることから、市政情報の取得手段としてホームページやSNS、LINEの役割は大きくなってきている。 市民意識調査においても、回を重ねるごとに「ホームページの充実」を希望する割合が大きくなってきていることから、より多くの情報をより分かりやすくホームページに掲載する必要性が高まっている。 今後もウェブアクセシビリティに配慮した見やすく探しやすいホームページ作りが行われるよう、ホームページの掲載情報を定期的に確認し、各所属に対する助言や全庁的な通知で改善をしながら取組を進める。	

第5次新座市総合計画実施計画 事務事業評価シート
(対象：令和6年度実施事業)

1 事業基礎情報（Plan）							3 事業評価（Check）					
基本政策		第6章 基本構想の推進のために					事業の実施状況		B	A：計画以上に実施 B：計画どおりに実施 C：計画どおりに実施できず		
施策領域		第1節 共創のまちづくり					事業の必要性 【市民ニーズ】		B	A：高まっている B：変わらない C：薄れている		
施策項目		施策1 共創によるまちづくりの推進					事業の効率性 【見直す余地】		B	A：余地はない B：余地はある		
事業		広報にいざ発行					施策への貢献度		A	A：貢献している B：やや貢献している C：貢献の度合いが低い		
所属		シティプロモーション課					事業の成果・分析		市政の情報を市民に広く伝えるため、広報にいざを発行し全戸配布を行った。特に力を入れている事業などは特集記事で紹介したほか、写真やイラストなどを使用し親しみやすいレイアウトと、簡潔で分かりやすい内容で作成した。 あわせて、市民参加の一環として、行事等の撮影を市民カメラマンが行い、広報紙に掲載するなどして、市の記録活動を担っていただいた。 令和6年度は、掲載希望が増加する月のページ数を増やし、必要な情報が漏れなく周知できるように作成した。また、読者アンケートのプレゼント企画では、協力していただける市内店舗などの新規開拓などを行い、読者層の拡大に努めた。			
事業概要		市政の情報や市内の出来事などをお知らせし、市民の市政に対する理解と参加意識を高めるため、広報にいざを発行する。 1 発行回数 年12回（毎月1日発行） 2 発行部数 月80,000～82,000部 3 刷色 全ページカラー 4 サイズ タブロイド版 5 ページ数 12ページ又は16ページ										
実施形態		■市が直接実施 ■一部委託 □全部委託・指定管理 □その他										
実施根拠		□国・県の制度 □国・県の制度＋市独自の制度 ■市独自の制度										
根拠法令等		なし										
2 事業実績（Do）							4 事業の今後の方向性・取組方針（Action）					
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		
予算・決算	予算現額（円）		40,927,000		42,898,000							
	財源内訳	一般財源	40,891,000		42,869,000							
		特定財源等	36,000		29,000							
	支出済額（円）		40,643,493		42,285,514							
	不用額（円）		283,507		612,486							
	執行率（％）		99.31%		98.57%							
実施内容			市政の情報を市民に伝えるため広報にいざを発行し、全戸配布を行ったほか、公共施設及び駅に設置した。 1 規格 タブロイド版12ページ又は16ページ 2 発行回数 年12回（毎月1日発行） 3 発行部数 月平均80,067部 4 刷色 フルカラー 5 市民カメラマン 9人									
年度			令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度	
	指標名	単位										
活動指標・成果指標	年間作成ページ	ページ	144		156							
	年間発行部数	部	955500		960800							
	市民カメラマン活動のべ回数	回	32		46							
今後の方向性		II		I：事業規模拡大 II：改善しながら継続 III：現状のまま継続 IV：事業規模縮小 V：事業廃止 VI：事業終了								
今後の取組方針		各課から掲載の要望が増えているため、連載枠の設定やレイアウトの変更などを行い、より充実した内容となるよう改善を図っていく。 あわせて、市民カメラマンの活用や、市内事業者の協力による読者アンケートプレゼント企画など、市民参加の取組を進める。 また、電子版の浸透と共に駅などの設置数は減らすなど、ニーズに合わせた発行部数となるよう調整する。										

第5次新座市総合計画実施計画 事務事業評価シート
(対象：令和6年度実施事業)

1 事業基礎情報（Plan）							3 事業評価（Check）											
基本政策		第6章 基本構想の推進のために					事業の実施状況		B	A：計画以上に実施 B：計画どおりに実施 C：計画どおりに実施できず								
施策領域		第1節 共創のまちづくり					事業の必要性 【市民ニーズ】		B	A：高まっている B：変わらない C：薄れている								
施策項目		施策1 共創によるまちづくりの推進					事業の効率性 【見直す余地】		B	A：余地はない B：余地はある								
事業		秘書広聴業務					施策への貢献度		A	A：貢献している B：やや貢献している C：貢献の度合いが低い								
所属		秘書広聴課					事業の成果・分析		・市長への手紙やメール等の受付やそれらに対する回答作成を通じて、まちづくりの課題や市民ニーズを改めて把握することができた。 ・小中学生と市長との懇談会、「未来の市長」作文、市内3大学学生と市長との懇談会の実施により、今後のまちづくりにおいて参考となる提案を頂いた。また、学生にとっても市政に対する関心を深める機会となった。頂いた提案の活かし方が今後の課題である。 ・新座市長とのタウンミーティングは、直接市民と対話できる貴重な機会であった。参加人数が今後の課題であると考える。									
事業概要		市民からの意見等を市政に反映させるため、市長への手紙や、新座市長とタウンミーティング等を実施する。 また、子どもたちのユニークな意見を市政に反映させるとともに、柔軟な思考により斬新なアイデアの提案が期待できる大学生から市政に対する提言等を受けるため、小・中学生及び市内3大学学生からの提案等の場を設ける。																
実施形態		■市が直接実施 □一部委託 □全部委託・指定管理 □その他																
実施根拠		□国・県の制度 □国・県の制度＋市独自の制度 ■市独自の制度																
根拠法令等		なし																
2 事業実績（Do）							4 事業の今後の方向性・取組方針（Action）											
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		今後の方向性		Ⅱ Ⅰ：事業規模拡大 Ⅱ：改善しながら継続 Ⅲ：現状のまま継続 Ⅳ：事業規模縮小 Ⅴ：事業廃止 Ⅵ：事業終了				
予算・決算	予算現額（円）		6,109,000		7,322,000													
	財源内訳	一般財源	6,109,000		7,322,000													
		特定財源等	0		0													
	支出済額（円）		5,780,027		7,210,821													
	不用額（円）		328,973		111,179													
執行率（％）		94.61%		98.48%														
実施内容		1 苦情・要望受付（市長への手紙、ファックス、メール、要望書、電話・来庁） 2 新座市長とタウンミーティング 3 小・中学生と市長との意見交換会 4 「未来の市長」作文 5 市内3大学学生と市長との懇談会 6 パブリック・コメント					今後の取組方針		・市長への手紙やメール等の苦情・要望について、こどもを始めとした幅広い年代からの意見を市政に反映できるよう、意見を提出しやすい環境を整備するものとして、令和7年度からは、市長への手紙の様式を幅広い年代が分かりやすい説明文に変更するとともに、市ホームページ内キッズページにこどもからの意見応募フォームを作成している。これらについて、市ホームページに掲載するとともに、ポスターを作成し、公民館・コミュニティセンターや図書館、児童センターなどこどもの利用が多い施設へ掲示しており、引き続き取組の周知に努める。また、頂いた意見や要望を適切に所管課へ伝達し、対応について検討を促す。 ・小中学生と市長との懇談会、「未来の市長」作文、小・中学生議会、市内3大学学生と市長との懇談会については、教育委員会、学校関係者の協力が不可欠である。事業を進めていく上で、関係者の負担が大きくならないよう効率的な実施方法を検討していく。 ・令和7年度から新座市長とタウンミーティングの開催回数を、コロナ禍前の年4回に戻すことで、市民の意見を直接聞くことのできる機会を増やす。1回あたりの参加人数を増やすため、引き続き市広報や市ホームページに加え、SNSによる情報発信に注力していく。 ・パブリックコメントは、条例制定や各種計画策定時に必要に応じて引き続き実施していく。									
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度								令和8年度		令和9年度		
活動指標・成果指標	指標名	単位																
	新座市長とタウンミーティング開催回数	回	3		3													
	新座市長とタウンミーティング延べ参加人数	人	32		37													